

スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を

日本自立生活センター自立支援事業所 2015年5月28日発行 第50号

祝☆50号！ いつもありがとうございます！！

「もっとお互いを理解するための場や時間を」というテーマで、事業所と利用者さん・介助者さんをつなぐ事業所通信『スキマタイムズ』を発行しはじめたのは2011年4月。今回で第50号を迎えることができました。いつも読んでくださりありがとうございます。

創刊時、「スキマ」には様々な意味を込めました。制度がきちんと行き渡っていないこと、「障害者」と「健常者」の社会的な格差、「利用者」と「介助者」の葛藤、世代間のギャップ、「想い」のすれ違い…。これらのスキマが少しでも埋まっていくように、一緒にやりとりしながら考えていきたい、という思いからです。

『スキマタイムズ』では、主にJCILの活動報告、イベントの案内をしています。また、制度から取り残される人がないように、さまざまな情報を発信してきました。コラムでは、他の利用者さん介助者さんの考え方や思いも紹介しています。「カラダを守る」シリーズやヨガ、薬膳のコラムでは、自立生活や介助の基本となる体調管理のヒントをお届けします。

そして、情報発信だけではなく、同じ場で出会ってやりとりをすることができる勉強会やイベントも企画してきました。さまざまな障害のことや制度のことを学ぶ勉強会、夕方から始まる「スキマ☆ナイト」、餅つきイベントなど、創刊した段階では思いもよらなかった企画が次々に生まれています。「介助」ではない時間に会うことで新たな一面が見えたり、普段は話す機会がない人と言葉を交わしたりするきっかけとなっていればうれしいです。

3名の障害当事者を含んだ6名の編集チームは、毎月企画や紙面について編集会議を開いています。これまで、小さな字でビッシリ書かれている号もあれば、写真が多くスペースゆったりの号もありました。発送日のギリギリに編集を終え、慌てて印刷して封入することもしばしばです。でも、途切れずに毎月お届けできたのは、イベントの企画をしてくれる方、原稿を書いたり写真の提供をしてくださる方、発送作業を担ってくださる方の協力があってこそ。そして、何より読者の方からの「『スキマ』読んだよ！」の励ましのおかげです。

これからも、お互いを知るための場や時間づくりを探っていきながら、みんなをつなぐ通信でありたいと考えています。スキマ時間によんでくださるとうれしいです！また、勉強会やイベントのアイデア、紙面へのご意見もぜひお寄せください♪
(編集担当：横川)

日本自立生活センター・ワークス共同作業所・自立支援事業所 合同交流会

JCILは、地域で自分らしく暮らす！を実現するために、様々な活動や事業を行っています。今年も定期総会に合わせて、この1年間を振り返るとともに、これからを考える会を開催します。自立支援事業所の利用者さん介助者さんも、ぜひこの機会にJCILの活動を知ってくださればうれしいです！

日 時：6月30日（火）13:00-16:00
会 場：京都市地域・多文化交流ネットワークセンター



日本自立生活センター自立支援事業所 編集担当：横川

ご意見・企画のアイデアなど大歓迎！バックナンバーはホームページ↓で読むことができます。

TEL:075-682-7950 E-mail:jcil-kyoto@jcil.jp URL:<http://www.jcil.jp/zigyosho/index.html>

アメリカ・カリフォルニア研修報告 part4

アメリカ研修報告も、いよいよ大づめ。今回は、教育と交通バリアフリーのことを取り上げます。

●インクルーシブ教育

「インクルーシブ教育」とは、障害児と健常児を分けずに、「共に同じ学校、クラスで学び、育つ教育」のこと。日本では、障害のある子とない子は、けっこう別々に教育を受けています。支援学校も大きいし、地域の学校でも、育成学級に入ることが多く、普通校の普通学級の同じ教室で、健常児と障害児と一緒に授業を受ける機会は少ないです。

そんな中、アメリカの学校ではどうかな？ということで、「リープウッド小学校」というロサンゼルスにある普通の小学校を訪問しました。ここには、自閉症の子への教育で有名なジュディさんという先生がおられます。その先生のお話をうかがうとともに、学校やクラスの様子を見学しました。



まず、ジュディさんが教えている低学年の授業を見学しました。最初に驚いたのは、私たちがこのクラスに入るとき、健常児がワーッと出ていったことです。ここでは、いわゆる育成級（スペシャルルーム）

で健常児が授業を受けることもあるようです。つまり「育成級は特別な子だけがいくところ」という雰囲気がないのです。原則は、みな普通学級に在籍します。そして授業内容や生徒の授業態度、心身の状況によって育成クラスも利用する、という形です。クラス間のしきいは低く、必要に応じて育成クラスへ行ったり普通クラスにもどったり。普通クラスにいても支援がなくなるわけではなく、支援はつづきます。身体障害だけの人は、物理的支援があればなんとかかなるので、育成クラスを利用する必要がなく、普通クラスに所属します。



高学年の育成クラスも見学しました。4つのブースがあり、お金の取り扱いを学ぶところ、学校の勉強をすることで、行動障害の重い子が参加するところなどにわかれて勉強していました。それぞれの必要に応じて、ブースに参加するようです。1つのブースに生徒は4~5人で、それに対する教員が補助教員を含め2人くらいの体制になっています。とにかく、「わけることは差別だ」というのがアメリカには浸透しているんだな、と思いました。養護学校（特別支援学校）もなくなりつつあるようです。普通級と育成級のしきいが低く、行き来が柔軟で、学校の雰囲気の一部に溶け込んでいるところが印象的でした。この後、中学、高校と進んでいくなかで、この「わけない」というインクルーシブの思想が、どういう形をとるのかを見ることができませんでしたが、興味深いです。

●交通バリアフリーについて

最後に少しだけ交通バリアフリーについて。今回の研修旅行は、基本的に車を利用しました。アメリカは、本当に車社会で、車がないと移動や生活がとても不便です。だからといって公共交通機関がぞんざいに扱われるということではなく、設備はしっかり充実していました。

まず、券売機。左の写真のように、車いすの人も、立って切符を買う人も、ともに見やすい角度、ボタンの位置でバッチシです。それから、右上図のように、電車とホームの間の段差やすきまはほとんどなく、車いすで単独乗車もスイスイ！そして車内は、右図のように自転車も積み込み可能で、車いすはまったく違和感ありません。余計な差別的感覚を生み出さないよう配慮されたすてきな設備、空間だな、と思いました（渡邊）



Art Festa 2015 作品募集中

テーマ「Evolution 進化・発展」

障害のある人が地域や施設で生活していく中で自分を表現する手段としての芸術、工芸の作品を募集します。未来を想像させる伝統文化、また新しい技術、手法、発想、考え方で作られた作品を募集します。

- ◆募集作品: 絵画、陶芸、写真、書、彫刻、その他
- ◆応募資格: 障害のある個人またはグループおよびその関係者
- ◆募集期間: 6月1日～6月30日(必着)
- ◆応募方法: 申し込みに必要な事項を記入のうけ、受付確認の書類を送付する封筒(住所・氏名を記載、切手貼り付け)を同封のうえ事務局まで送付してください。受付後、受付番号を記載した確認票を送ります。
- ◆作品形態: 絵画、写真、書・・・500mm(幅)×1500mm(高さ) ※壁面に吊り下げ可能な額装を含む
彫刻、陶芸、工芸等・・・500mm×500mm
- ◆出品料: 無料(搬入、搬出の経費は各自負担)
- ◆作品展示: 原則として応募のあったすべての作品を展示しますが、応募点数が多い場合展示できない可能性があります。
参加希望者が集中した場合は、厳正なる抽選・審査のうえ、参加を決定させていただく場合がございます。
- ◆作品搬入: ワークス共同作業所への持ち込み・郵送・宅配(元払)による。
作品票を必ず貼付してください。
- ◆作品搬出: 直接引き取り・宅配(着払)
- ◆詳しくは募集要項をご覧ください!



<http://kyoto-j-works.com/artfesta/2015/2015artfesta.pdf>

- ◆申し込み・問い合わせ

日本自立生活センター ワークス共同作業所 アートフェスタ係(担当:大崎)

TEL:075-682-3201 FAX:075-682-3330 Email:saba@mediawars.ne.jp



アートフェスタは8月22日(土)～24日(月)
京都市地域・多文化交流ネットワークセンターにて
ぜひご予約ください♪♪

こころとからだをすっきり! ヨガタイム

ヨガで自分の身体と向き合ってみませんか? ヨガの目的はきれいなポーズをとることではありません。その日の身体がどんなふうに動くか動かないか、意識を自分に向ける時間です。呼吸が深くなり、肩こり、腰痛、疲労感もやわらぎます。ぜひ参加してみてください♪

講師は石田久美さんです。

★ヨガ: 全身をうごかすヨガ

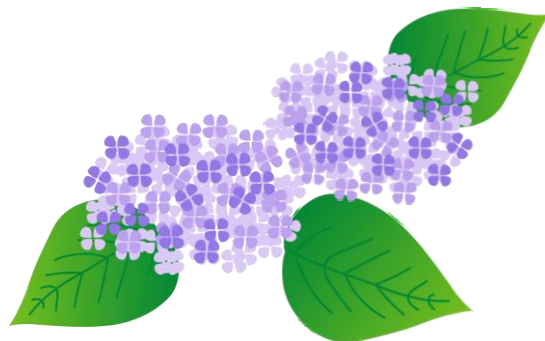
日 時: 6月8日(月) 18:15-19:30 (OPEN 18:00)

場 所: 油小路事務所2F

持ち物: 動きやすい服装・タオル・飲み物

参加費: 無料

* このヨガクラスは、JCIL自立支援事業所の利用者と家族・介助者を対象にしています。



～地域生活で大切にしていること～

「誰もが地域で自分らしく当たり前暮らし」を実現するためにJCILではさまざまな活動をしています。だけど、「地域生活」の形はさまざま。楽しいときも、うまくいかないときもありますよね。みんなどんな暮らしをしているのかな？そこで、この紙面でも、ときどきみなさんの「地域生活」についてご紹介していきたい、と思っています。あなたは地域生活でどんなことを大切にしていますか？



石井フィアーナです。6月で還暦になります。ちょーおてんばでスポーツ大好き。60歳になったら“おてんば”じゃなくて“おてんばば”になるけど——ハハハ。大事にしてくれるうるさい娘とうるさい息子と犬と一緒に住んでいます。ラブドールのナイトは介助犬で、ET そっくりな2匹のパグは愛情犬です。

24時間ヘルパーの応援があるからこそ生活できてます…愛されてるわぁ。貧乏暇なしで一生懸命働いています。毎日自宅でたくさんの人に英会話を教えているけど、逆に生徒も私に色んなことを教えてくれます。絵描きでもあるので、海や動物、昆虫のテーマで頑張ってる描いています。

最近世の中のコミュニケーションが携帯電話中心になっていることを危惧しています。もっと人と直接会ってコミュニケーションをとる事が大事。

地域で生活していく上でも近所付き合いは非常に大切だと思っています。先日は近所みんなが集まるために自宅でジャズライブをしました。ご近所づきあいは努力も必要なので、よく近所の方におすそわけしたり、外で喋ったりしています。今の家に引っ越した当初は近所の方も遠慮があったり、どう接したら良いか分からなかったりしたと思います。周りも気を遣いすぎているので、逆に自分から心を開いていくと相手も心を開いてくれます。

心のバリエードではなくて、心のバリアフリーのアピールすると、みんなホッとして声かけてくれるようになります。みんな「バリアフリー」と言うけれど、心はバリアフリーになっているかしら？心を開いたらどんな世界でも開きます。人付き合いだけではなく、恋愛も同じこと。人付き合いも恋愛もバリアフリーでいきましょう。



* 石井 フィアーナさんプロフィール *

1955年アメリカカリフォルニア州生まれ。16歳の時、事故により首から下が不随になる。20歳で石井浩一さんと結婚。その後、長女長男を出産。浩一さんと共にスキューバダイビングや気球、ヨットなどにチャレンジ。

現在は自宅で英会話教室を開き、大勢の生徒を教えている。

画家としても活動しており、点描で昆虫、動物、海の魚をモチーフに描いている。

予告 居場所づくり勉強会 第35弾！

～途上国の貧困問題に向き合う・フィリピンの貧困の現状～

皆さま、初めまして、ヘルパー3年目の築瀬です。

僕は学生時代、フィリピンの貧困を見に行くツアーに参加しました。そこで知ったフィリピンの貧困層の人々の生活の厳しさは、衝撃の一言でした。以来、僕は国際協力で自分には何が出来るのか、貧困をなくすための方法はなんなのか、ということを考えてきました。

フィリピンにも今まで合計7回訪れてきました。その度に突き付けられるのは、相変わらずの貧困に生きる人々の生活の厳しさでした。今回は、そんな途上国の貧困問題と、フィリピンの貧困を通して向き合ってきた僕の経験をお話させてもらいたいと思います。

スピーカー：築瀬 仁志さん
日時：7月3日(金) 14:00-16:00
場所：日本自立生活センター事務所
参加費：無料
担当：横川

